

1. 趣旨

本学府の研究活動の活性化を図るとともに、研究成果を社会に還元するという目的のため、本学府生の研究成果の出版を助成する。1件あたり150万円を上限とし、出版費用全額を助成する。

2. 申請資格者・助成対象

- ・地球社会統合科学府（比較社会文化学府）博士後期課程に在籍したことがあり、応募段階で任期のない職に就いておらず、内定も得ていない者。
- ・申請者が本学府に提出した博士学位論文に基づき、出版向けに改稿した特に水準の高い著作物。
- ・科研の研究成果公開促進費あるいは九州大学出版会の出版助成等に応募済みであること。
- ・本助成に申請する前に特定の出版社（日本国内に限る）と交渉し、様式2の様式を用いて出版費用の見積書を徴取するものとする。また、採択後は著者、出版社及び本学との間で出版契約を締結すること、印税が発生しないことの2点について、申請者は当該出版社からあらかじめ了承を得ておかなければならない。

3. 提出に必要な書類

(1) 完成原稿

- ・分量は400字詰め原稿用紙で600枚相当を標準とする。
- ・申請者は、指導教員もしくは関係教員により、提出前に内容や文章等のチェックを受けること。
- ・図版や図表や写真等の引用をはじめ、著作権や著作権にかかわるような引用がある場合、それらの権利の侵害にならないような措置や確認をしておくこと（コピーライトに関する疑義によって採用されない場合があるため）。

(2) 申請書（様式1）

- ・様式に沿って、学歴、関連論文一覧、他の出版助成への応募状況、原稿の概要、刊行の目的及び意義等について記入すること。
- ・提出した原稿のアピールポイントをわかりやすく記入すること。
- ・博士論文そのままでは刊行できないので、博士論文をどのように加工したのかも説明すること（たとえば、構成を変更した、新たな章を付け加えた、etc）。

(3) 見積書（様式2）

- ・特定の出版社から見積書を徴取しておくこと。

(4) 原稿評価の参考になる書類（提出は任意）

- ・例えば既発表論文について言及、引用した論文などのコピーがあれば提出すること。

4. 提出方法

- ・申請者が大学院に在籍中の場合は指導教員を通じて、修了者・退学者の場合は元の指導教員もしくは関係教員を通して、図書紀要委員長に上記(1)～(4)の書類を提出する。
- ・書類はすべて電子データと紙媒体の2種類で提出すること。
- ・紙媒体では、2部ずつA4紙にプリントアウトしたものを用意し、完成原稿については簡易製本すること。
- ・電子媒体では、原則として、完成原稿についてはWORDファイルで、その他の書類はWORDまたはPDFで提出すること。

5. 締切

基本的には毎年度の9月30日。

追加募集する場合は教授会を通じて教員に通知する。

6. 備考

(1)審査基準

- ・学術的に質の高い研究成果
- ・独創性のある研究成果
- ・先見性に富む研究成果
- ・社会的、学術的に要請が高い研究

なお、以下に該当するものは審査対象外とする。

- ・博士論文をそのまま提出した原稿
- ・字数制限を超えた原稿
- ・校正段階で多くの修正が必要な原稿
- ・図版、図表、写真等の引用において、著作権や著作権についての権利を侵犯する原稿

(2)選考手順

- ・10月開催の図書紀要委員会で提出原稿と書類を確認し査読者を決定する。1月以降の図書紀要委員会において、査読結果とともに、提出された企画書の内容を検討し、遅くとも2月の教授会に付議して助成を決定する。出版は次年度末までに行うこととする。

・被助成者が助成決定時点で九州大学に所属していない場合、次年度に学術研究者となる手続きを速やかに行う。